

研究テーマ 入院時に看護師が持つ転倒転落に関する直観

病 院 名 医療法人社団健育会 西伊豆健育会病院

演 者 ○^{ふじい さとし}藤井聡(看護師) 柴崎智恵(看護師) 相馬葉子(看護師)
伊東陽子(看護師) 磯谷里佐(看護師)

概 要

【研究背景】

わが国では、高齢者による転倒転落による骨折といった重傷事故につながるケースが増加しており、その予防が課題となっている。先行研究¹⁾では、直観の内容までは明らかとなっていない。

【研究目的】

経験豊富な看護師が、入院時に患者へ関わった際の転倒転落に対する直観の内容を明らかにする。

【研究方法】

1. 研究対象者：A病院病棟勤務看護師11名
2. 調査期間：平成30年7月～10月
3. 調査内容・方法：入院時の転倒転落に関する直観についてインタビューを実施し、内容を録音する。
4. 分析方法：逐語録化した内容を12種類のカテゴリーに分類し、具体的な発言内容をサブカテゴリーとして分類。
5. 倫理的配慮：得られたデータは研究目的のみで使用し、取り扱うこと、同意書の提出後であっても研究の参加についていつでも拒否・辞退できることを書面・口頭で行った。

【結果】

逐語録化した内容から12種類の直観が抽出された。1. つじつまが合わない会話 2. 帰宅願望の訴え・行動 3. 落ち着きのない行動 4. 転倒歴 5. 歩き方 6. 筋力・関節の状態 7. 整っていない服装・身だしなみ 8. 性角 9. 入院歴 10. 単独行動 11. 話と行動の違い 12. 普段と違う状況、であった。

【考察】

抽出された直観の66%が非言語メッセージであった。経験豊富な看護師は、非言語メッセージを的確に捉え、転倒転落につながる直観となっていた。直観3～6、8～10は、転倒転落アセスメントシート項目に既往歴・運動機能・活動領域・患者特徴などとして該当する内容であった。先行研究²⁾において転倒リスクにつながる可能性が高いことが示唆されており、具体的に語られたサブカテゴリーの内容は、実際に観察を行なう際、転倒転落を予見する行動に活かすことができる有用なものであると考える。

直観7. 整っていない服装・身だしなみは転倒転落アセスメントシートにない項目であった。身だしなみや整容が保たれているか否かについて、転倒転落リスクとの関連性の研究はない。

直観8. 性格、直観10. 単独行動は、他者の意見を聞き入れず、自己判断での動作を繰り返すことで転倒転落リスクにつながるのではないかと考えられる。

整っていない服装・身だしなみについて共有し、入院時からの転倒転落防止に役立てられるよう活用していく。

【結論】

1. 経験豊富な看護師が持つ転倒転落に関する12の直観内容が抽出できた。
2. 経験豊富な看護師の直観の66%は非言語メッセージであった。
3. 直観7. 整っていない服装・身だしなみは新たな直観であった。

【引用参考文献】

- 1) 相馬葉子ら：看護師の経験年数・キャリアと転倒転落予防に対する観察・判断の違い 2017
- 2) 形浦睦子ら：過去4年間の転倒転落 2010